

I 2020年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2020年度大学評価結果総評】(参考)

デザイン工学部では、教育課程の質の向上に関して積極的な取り組みがなされている。学生の自己評価として、学部共通の「デ工学習支援システム」が稼働した。また、2019年度からの新カリキュラムの実施にあたり、履修の手引きの構成を見直し、学生の履修計画がよりスムーズになるよう工夫している。JABEE 研修会への代表教員の参加と研修報告や、授業のビデオ画像収録による自己点検と相互視聴、外部審査員の招聘などに取り組み、教員の質の向上への積極的な取り組みがなされている。

2019年度目標に関しては、教育環境およびツールの改善などが着実に進んでおり、評価できる。2019年度施設面で課題となっていた造形制作室の充実が2020年度目標に盛り込まれており、引き続き検討されたい。

2020年度の重点目標として、「法政スタンダードや文理融合プログラムなど基盤教育の在り方との整合を図るかたちでの基盤教育の抜本的な見直しを図ること」が挙げられている。2020年度ではその検討が開始されることが望まれる。ほか、「オンライン授業の戦略的な展開」が挙げられており、教育の質をより向上させるよう継続的な取り組みに期待したい。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

2020年度はCOVID-19への対応・対策を最優先し、授業・会議等のオンライン化を進めるとともに、デザイン工学部における演習・実験・実習の重要性に鑑み、十分な安全対策を講じたうえで夏季集中特別授業期間にはいち早く演習系授業の対面実施を行った。これまで、本学部の授業や研究活動に起因する新型コロナウイルス感染は報告されていない。2021年度は、2020年度の経験をもとに、コロナ禍、コロナ収束後のオンライン授業や演習系授業の在り方について検討していく。

造形制作室の充実に関して、2020年度に陶芸機材類や金属加工機の新規導入が決定し、2021年度に導入予定である。COVID-19の影響による造形制作室の利用状況の変化を考慮しつつ、今後の運用体制について造形制作室運営委員会にて議論を進める。また、実験科目の充実を図るため、他の教育機関と連携し、同校の実験施設を夏季集中の演習授業で利用する計画を進めているが、COVID-19の影響により実施は2022年度以降となる見込みである。

基盤教育の見直しに関しては、2020年度に基盤教育委員会によって基盤教育方針の草案が作成された。2021年度も引き続き同委員会を中心に検討を進め、議論を深めて方針を策定する計画である。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

デザイン工学部では、2019年度に大規模なカリキュラム改定がおこなわれ、開講科目の大区分を外国語科目、基盤科目、専門科目の3区分とした。そして、文理融合と、実務と結びついた演習・実習、スタジオ教育を通じた専門教育を充実させており、大学評価委員会の評価結果への対応が十分なされていると評価できる。今後も、このカリキュラム改定によりどのような教育効果があったのか、具体的な検証の継続が望まれる。

また、造形制作室の充実のために、2021年度に陶芸機材類や金属加工機が新規導入される予定であり、これらの機材、機器を活用した、実習・実験科目内容の充実が期待される。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

2019年度にカリキュラム改定を実施し、開講科目の大区分を外国語科目、基盤科目、専門科目の3区分とした。基盤科目は、中区分を総合系、人文社会系、理工系、留学生に改め、文理融合と専門科目への一体的な展開を目指した科目の配置を行っている。専門科目については、多

様な学びを支援するための導入科目と、各学科の専門領域に適合した基礎科目、展開科目をそれぞれ配置し、基礎的科目と専門教育の連携や実務と結びついた演習・実習教育、スタジオ教育の充実を図っている。また、多分野の先端技術に

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>対応するため、各学科の専門科目の一部を学部共通科目として開講している。</p> <p>なお、建築学科では、2013年度に大学院建築学専攻とともに JABEE（日本技術者教育認定機構）より教育プログラムの認定を取得しており、この認定によって UNESCO-UIA（国際建築家連合）提唱の建築教育憲章に基づく国際的な教育プログラムとの同等性が保証されている。また、都市環境デザイン工学科の教育プログラムは、工学部時代の 2004 年より JABEE に認定されており、国際社会が求める技術者人材を輩出する教育内容となっている。</p>	
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページ URL や掲載冊子名称等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政 HONDANA） ・カリキュラムマップ・カリキュラムツリー（デザイン工学部ホームページ） <p>https://www.hosei.ac.jp/edn/shokai/map_tree/</p>	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系的性を確保していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>外国語科目と基盤科目に関しては、1 年次から履修可能な科目を多く配置しながらも、一部の科目については、授業内容の専門性・高度性を考慮して 2 年次または 3 年次以上に配置している。専門科目に関しては、導入科目、基礎科目、展開科目の順に、専門性が学年進行とともに段階的に高まる教育課程を編成している。また、科目区分ごとに必修科目や選択必修科目を設定し、進級・卒業要件を定めている。</p> <p>専門科目系として建築学科では 5 つの系を、都市環境デザイン工学科とシステムデザイン学科ではそれぞれ 3 つの系を設定しており、各学科とも系ごとにカリキュラムツリーを作成して科目間の年次時系列的なつながりを可視化している。また、学科ごとに各科目とディプロマポリシーとの対応を示すカリキュラムマップを作成している。カリキュラムツリーとカリキュラムマップは履修の手引きと学部ホームページに掲載し、学生がカリキュラムを体系的に把握し、適切な履修順序を確認することができるようにしている。</p>	
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政 HONDANA） ・カリキュラムマップ・カリキュラムツリー（デザイン工学部ホームページ） <p>https://www.hosei.ac.jp/edn/shokai/map_tree/</p>	
③幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>教養教育（基盤科目）は文化や歴史、社会、経済に対する包括的な理解を促すとともに、社会的責任を自覚した実践的な職業倫理を鍛えるものとして、具体的には以下のように実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語教育：英語教育は TOEIC を熟達度指標とした実践型とし、外部の専門教育組織に委託している。中国語、イタリア語については、語学教育をベースに異文化理解を目指す科目として捉えている。なお、英語教育に関しては、学部内に英語教育委員会を設置し、外部委託先と協議しながら審議・検討を行っている。 ・理工系基盤教育：学科ごとに専門教員が担当し、専門科目との一貫性を確保している。 ・その他の基盤教育：デザイン工学の実践的側面を補う観点から、総合系、人文社会系の科目を取り揃え、1～4 年次配当科目を中心に、一部の科目を 2 年次以降に配置している。 	
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政 HONDANA） ・英語教育委員会資料、議事録 	
④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>3 学科とも、少人数制の初年次導入科目を設け、大学における学びに対する意識付けや動機付けを行っている。また、入学時における英語、数学、物理の学力を把握するため、プレイスメントテストを実施している（2020 年度は COVID-19 の影響のため中止とし、2021 年度は Web 試験により実施した。）</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>建築学科では、「スプリングセミナー」において、数学・物理の知識が不十分な学生に対する補習授業を実施している。</p> <p>都市環境デザイン工学科では、「導入ゼミナール」において、コンピュータリテラシー等の基礎教育を行っている。また、1年生を対象とした力学系・数学系科目では高校数学の復習を適宜講義内容に取り入れている。</p> <p>システムデザイン学科では、「導入ゼミナール」において、図書館ガイダンスやマナー講座を実施するとともに、フィールドワークやグループワーク形式の授業を取り入れている。数学や力学の必修科目では、高等学校において数学 III や物理を履修していない学生に配慮した授業内容としている。また、「システムデザイン入門」において、全専任教員からシステムデザインという学問分野を分野横断的に解説し、学生がそれぞれの立場から学科で学ぶ目標や意味を見つけ、キャリア形成の重要性などを自覚するようにしている。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン工学部新入生への案内 ・デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政 HONDANA） ・授業記録（建築学科、都市環境デザイン工学科）、授業資料（システムデザイン学科） 	
⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>外国人等客員教員の制度を活用して積極的に外国人教員を招聘し、外国人教員による「特別講義」等の授業を開講している。2020年度は外国人等客員教員1名が着任した（当初は2名の予定であったが、うち1名はCOVID-19の影響により招聘を2021年度に延期した後、状況が好転しないことから取下げとした）。さらに2021年度にも1名を招聘している（COVID-19の影響により入国が遅れたため、春学期当初は日本国外在住のままオンラインにて講義を実施）。また、2019年度に、英語の熟達度を測る指標をTOEFL-ITPからTOEIC-IPに変更し、幅広い対応性を目指すこととした。</p> <p>建築学科では、2年次に外国人教員担当の学部科目「Design Basics in English」を配置している。</p> <p>都市環境デザイン工学科では、2年次に「工業英語」を、3年次には「工業英語実習」を配置し、実践的英語の教育を行っている。「工業英語」では試験科目として工業英検3級、4級を導入している。</p> <p>システムデザイン学科では、2016年度より、南フィリピン大学において個人レッスン90時間・グルーブレッスン60時間に及ぶ「海外英語研修」（C期、50日間）を実施しており、TOEIC-IPスコアの向上につながっている。ただし、COVID-19の影響により2020年度は中止となり、2021年度も中止が決定している。2022年度以降については、オンラインによる実施や代替プログラムの可否について検討を行う。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政 HONDANA） ・英語教育委員会議事録 ・デザイン工学部教授会議事録 	
⑥学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>各学科において、初年次配当の導入科目の中で卒業後のキャリアパスを紹介している。また、実社会の現状・課題等をキャッチアップするため、兼任教員による授業を多く導入している他、実務で活躍する社会人による特別講演会を開催している。</p> <p>建築学科では、「スプリングセミナー」（1年次）において「アーキテクト マインド」の冊子を配布し、建築を学ぶことの意義を説くとともに、卒業生の協力を得てキャリアパス教育の一端を担う内容を組み込んでいる。カリキュラムは、建築士試験の受験資格として必要な指定科目群と対応づけられた科目群で構成され、職業的自立を図るために必要なキャリア教育が実践されている。また、授業担当教員は建築士資格や実務経験を有する実務家教員が過半を占めており、実務の観点を踏まえた授業が積極的に行われている。</p> <p>都市環境デザイン工学科では、「導入ゼミナール」（1年次）にて実社会における都市環境デザインの役割の説明を、「基礎ゼミナール」（2年次）にてキャリアパスとロールモデルの説明やキャリア紹介ビデオの視聴、技術士説明会をそれぞれ行っている。また、「ゼミナール」（3年次）におけるキャリア指導（キャリアセンターによる講演）、同窓会（法士会）との懇談会（キャリアデザインセミナー）を実施している。</p> <p>システムデザイン学科では、「システムデザイン入門」（1年次）の一環として、キャリアセンターの協力を得てキャリ</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

アデザインに関する講義を実施するとともに、卒業生をゲスト講師に招いた講義を行っている。また、「ゼミナール1」(3年次)においてキャリアアップ講座を実施している。

都市環境デザイン工学科とシステムデザイン学科では、3年次に選択科目「インターンシップ」を配置し実務体験を促している。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き (冊子体、法政 HONDANA)
- ・Web シラバス
- ・建築士試験受験資格指定科目対応表 (建築学科)
- ・授業記録 (建築学科、都市環境デザイン工学科)、授業資料 (システムデザイン学科)

1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S A B

【履修指導の体制及び方法】 ※箇条書きで記入。

- ・新入生に対して、オリエンテーションの一環でもある「スプリングセミナー」(建築学科)、「導入ゼミナール」(都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科)において、各学科が提供する教育カリキュラムを体系的に解説するとともに、少人数制による履修指導を行っている。
- ・2年生以上に対して、進学時のガイダンスにおいて進級・卒業要件の確認を含めた履修指導を行っている。
- ・学科ごとに達成度自己評価システム (Excel ファイル) を学生に提供し、学生自らが年間履修単位数を点検し、進級・卒業要件、資格要件に必要な単位修得状況、GPA などを確認できる仕組みを整えている (建築学科は2019年度以降入学生が対象)。
- ・建築学科では、学科独自の履修支援システム「CARESS」をIAE (Integrated Archive Environment) サーバー (学科内で運用するサーバー) 上に構築し、建築士受験資格要件を満たすための履修シミュレーションなどができる環境を学生に提供している (2018年度以前入学生が対象)。
- ・都市環境デザイン工学科では、達成度の状況に応じて担任教員が学生との面談に応じている。
- ・システムデザイン学科のSSI コースの学生については、一般の学生とカリキュラムが異なるため、履修登録時に別途履修指導を行っている。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き (冊子体、法政 HONDANA)
- ・デザイン工学部教授会資料 (ガイダンス日程表)
- ・達成度自己評価システム
- ・IAE サーバー「CARESS」(履修支援システム) の利用案内 (建築学科)
- ・学生から提出された「達成度自己確認システム」(教員による内容確認済み) の保管資料 (都市環境デザイン工学科)
- ・SSI 履修の手引き (システムデザイン学科)

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

S A B

※取り組みの概要を記入。

各学科において、入学・進学時のガイダンスで当該学年に特徴的な授業や履修上の注意点等を説明しており、新入生に対しては、少人数制の導入科目の中で大学における学習方法を指導している。また、担任制による学習指導 (成績不振学生との面談等) を実施しており、2019年度からは成績不振学生の指導記録を学部で集約し、確実な指導の実施と記録の保存を図っている。

個々の授業に関しては、学習に必要な事項をシラバスに明記、または学習支援システムを通して学生に周知するとともに、多くの科目に教育補助員 (T・A) を配置し、学習支援を行っている。専任教員は、全教員がオフィスアワーを設定し学生の個別相談に対応している。(ただし、2020年度はCOVID-19の影響のため、メールやビデオ会議システム等を利用した対応を行った。)

システムデザイン学科では、学年ごとに学年担当の専任教員を配置している。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政 HONDANA）
- ・成績不振学生指導記録
- ・Web シラバス

③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。

S A B

※取り組みの概要を記入。

年間履修登録上限数を 49 単位と定め、学習時間を確保しやすい仕組みとしている（2021 年度は、COVID-19 による影響を考慮し、2020 年度以前入学生を対象に上限を 53 単位まで引き上げることのできる特例措置を講じている）。また、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、必要に応じて校舎への入講や教室の利用を制限しつつ、感染症予防対策を徹底したうえで、授業時間外に教室を開放して学習場所を確保するよう努めている。

建築学科では、学科内の IAE サーバーにより授業成果物を記録し、予習・復習素材として公開している。また、同サーバーの RFC (Request For Comments) 機能により、双方向性の自習ができる環境を整えている。

都市環境デザイン工学科では、シラバスや授業計画を参考にし、事前に学習すべき内容を学生へ周知するとともに、講義では、適宜宿題を課して復習・自習の動機を与えている。実験・実習・演習では、レポート作成によって復習を徹底する授業運営としている。4 年生には卒業研究実施記録の作成を指導し、研究内容を日常的に記録・報告させて学生の自己管理を基本とする教育指導体制としている。

システムデザイン学科では、予習・復習のため、学習支援システムを活用した資料提供や学習指示を行っている。特に演習・実習系の授業では、授業時間外での作品制作やグループワークが行われるため、感染症予防対策を実施したうえで、スタジオ教室を授業時間外に開放したり、造形製作室やゼミ室を利用できるようにしたりするなどの配慮を行っている。

【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・Web シラバス
- ・IAE サーバー「RFC」(Request for Comments) の利用案内（建築学科）
- ・卒業研究実施記録、各授業の講義記録（都市環境デザイン工学科）
- ・授業資料（システムデザイン学科）

④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。

S A B

【具体的な科目名及び授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。

< 建築学科・システムデザイン学科 >

- ・「構造実験」「材料特性実験」（建築学科）、「プロダクトデザイン 1～4」「プロジェクト実習・制作 1・2」（システムデザイン学科）などの実験・実習系授業：大型工作機械や 3D プリンタ、3D スキャナ等を活用した造形実習教育 ※ 機器機材の適切な運用管理にあたっては、造形製作室運営委員会を設置し、利用調整を図るとともに、定期的に教務助手や教育技術嘱託を常駐させることで安全管理に努めている。

< 建築学科 >

- ・「デザインスタジオ 5・6」：HAL (Hosei Active Learning) スタジオを活用した少人数制設計教育（アクティブラーニング）
- ・「フィールドワーク」：グループワークによる街区や建物の調査、および図面・模型の製作（PBL 型フィールドワーク）

< 都市環境デザイン工学科 >

- ・「デザインスタジオ」：基礎立体造形の訓練（アクティブラーニング）
- ・「橋のデザイン実習」：橋梁の計画と模型製作（アクティブラーニング）
- ・「鋼構造学及び演習」：鋼構造の計画と模型製作（アクティブラーニング）
- ・「RC 構造学及び演習」：配筋模型の製作（グループワークによるアクティブラーニング）
- ・「プロジェクトスタジオ」：対象地区に対する現地調査・課題抽出に基づく改善策の図面化と模型製作（PBL 型フィールドワーク）

< システムデザイン学科 >

- ・「海外英語研修」：国際性を涵養するための英語によるコミュニケーション能力向上（個人授業を含む） ※ 2020 年度・2021 年度は COVID1-19 による影響により中止
- ・「ゼミナール 1」：全学生による複数のプレゼミの受講（多分野融合研究の基礎構築）
- ・「プロジェクト実習・制作 1・2」：製品企画、設計、製造、流通に至る「ものづくり」の過程を総合的・横断的に実習（分野横断型 PBL）

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>・「応用プロジェクト1・2」：本格的な製品企画と、その具現化（PBL）および作品の学外コンペティションへの積極的な応募の奨励</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>・建築学科「デザインスタジオ1・3・5・7」：各デザインスタジオにおける学生の成果を全学年横断的に発表・講評する場としてパーティカルレビューを開催して、教員・学生同士で活発に議論し、評価・講評する機会を設けた。</p> <p>・システムデザイン学科「応用プロジェクト1・2」：経営学部の教員・学生も参加し、学部の枠を超えたグループを編成することで、学外コンペティションへの応募を前提とした多様な視点による製品企画を目指している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・Web シラバス</p> <p>・授業記録（建築学科、都市環境デザイン工学科）、授業資料（システムデザイン学科）</p> <p>・学外コンペティションのホームページ（システムデザイン学科） GUGEN https://gugen.jp/index.html 横浜ビジネスグランプリ https://www.idec.or.jp/kigyo/ybg/</p>	
<p>⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。</p>	<p>S A B</p>
<p>※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <p>英語については、1クラス30名以下として英語能力に応じたクラス編成を行っている。各学科で実施している初年次導入科目では、全専任教員がそれぞれ少人数のクラスを担当することで、新入生とのきめ細かなコミュニケーションを図っている。</p> <p>建築学科では、学生個別の指導が必要な「デザインスタジオ」等のデザイン系演習科目について、学年を4～6クラスに分割して少人数授業を実施している。</p> <p>都市環境デザイン工学科では、数学・物理等の基礎的科目および「RC構造デザイン」「鋼構造デザイン」などの講義科目、「工学実験1」などの実験科目、「測量実習」「デザインスタジオ2」などの実習科目において2クラスに分割して少人数での学習指導を実施している。</p> <p>システムデザイン学科では、数学、力学の必修科目に加え、「図形科学基礎演習」「プログラミング基礎演習」「デジタルデザイン演習」「3DCADデザイン」「3Dモデリング」などの演習科目において2クラス制による少人数での指導を実施している。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政 HONDANA）</p>	
<p>⑥通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。</p>	
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>・Zoomや学習支援システム、Google Classroom、YouTube等を活用し、多くの授業をオンライン化・オンデマンド化している。</p> <p>・作品制作やフィールドワークを想定した演習・実習科目について、自宅外での活動が制限される状況に配慮したテーマの設定・変更を行っている。</p> <p>・演習授業等の教材を学生の自宅に送付している。</p> <p>・定期試験の代替として学習支援システムのテスト機能を活用した成績評価を行っている。</p> <p>・実習授業における作品講評会の代替として、学習支援システムやOATubeを活用し、学生がアップロードした作品データ（画像、動画）を教員や他の受講生が閲覧できるようにしている。</p> <p>・情報教室にインストールされているソフトウェアを利用する授業をオンラインでも実施できるように、フローティングライセンスを追加購入し、学生が自宅からでもVPN接続してソフトウェアを利用できるようにしている。</p> <p>・造形制作室やデジファブセンターの利用に関して、Googleフォームによる利用申請や問い合わせの受付、利用予定表や予約状況の開示、予約者が多い場合に混雑を回避するための抽選等を行っている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・学習支援システム</p> <p>・各学科教室会議議事録</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・授業記録（建築学科、都市環境デザイン工学科）、授業資料（システムデザイン学科）

1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。

S A B

【**確認体制及び方法**】※簡条書きで記入。

- ・成績の評価方法と評価基準を履修の手引きや Web シラバスに記載し、学生へ明示している。
- ・学生からの成績評価に対する疑義に対しては成績調査により対応しており、必要に応じて解答用紙や提出レポート等を開示し、採点理由を説明することとしている。
- ・JABEE プログラム責任者を中心に成績評価・単位認定の妥当性を検証している。（建築学科・都市環境デザイン工学科）
- ・全ての授業について「採点・評価結果報告書」（成績原簿）を作成・保管し、GPCA や習得率を確認している。また、必要に応じて成績分布を確認するシステムを採用している。（都市環境デザイン工学科）
- ・グループワーク等、各人のグループ成果への貢献度の定量評価が難しい科目において、成績評価項目にグループ内での自己・相互評価の結果を含めている。（システムデザイン学科）

【**2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等**】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【**根拠資料**】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政 HONDANA）
- ・Web シラバス
- ・成績調査願

②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。

S A B

※取り組みの概要を記入。

成績評価項目（レポート、小テスト、定期試験など）とその評価比率をシラバスに明記し、その内容に従って成績を適正に評価している。また、年度末等に開催している授業打ち合わせ会や講師懇談会等の場で、成績の厳正評価を、兼任教員を含む全教員の共通認識とすることを徹底している。卒業研究や卒業制作については、各学科において審査会を実施して複数の教員で厳格な評価を行い、教室会議にて単位認定の判定を行っている。

都市環境デザイン工学科では、出席管理システムで設定する遅刻や欠席となる時間を学科で統一しており、欠席回数についても統一したルールを設けている。また、2018 年度の JABEE による中間審査時の指摘に対応して、達成度自己評価システムの提出を 3 年次ゼミナールの単位取得の条件として明示している。

【**2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等**】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【**根拠資料**】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・Web シラバス
- ・日本技術者教育認定基準（2012 年度～）、日本技術者教育認定基準共通基準（2012 年度～）（建築学科、都市環境デザイン工学科）
- ・各学科教室会議議事録
- ・スタジオ連絡会議の議事録（建築学科）、授業打ち合わせ会資料（システムデザイン学科）

③学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。

はい いいえ

※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。

各学科において、就職担当教員を中心に内定状況や求人に関する就職活動情報を収集・管理し、教室会議で共有している。また、学科ごとに集計した進路情報はキャリアセンターに情報提供しており、学部パンフレットにも掲載している。

【**根拠資料**】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各学科教室会議議事録
- ・就職担当教員による情報収集資料
- ・キャリアセンターへの情報提供資料
- ・デザイン工学部デジタルパンフレット（デザイン工学部ホームページ）

1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。

はい いいえ

※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。

学科ごとに、GPA の分布や GPCA の算出による授業ごとの成績分布を把握している。また、進級要件を設けており、留級

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>者や成績不振者の状況を教室会議で確認し、担当教員が個別面談による学習指導を行っている。各学科の進級・卒業判定結果は教授会で報告され、承認されている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科教室会議議事録 デザイン工学部教授会議事録 	
<p>②「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>英語教育について、TOEIC-IP のスコアによる到達目標を設定している。卒業研究や卒業制作については、学科ごとに実施する審査会を通して学習成果を総合的に把握しており、成果が不十分と判断される学生については再審査や論文再提出の機会を設けている。</p> <p>建築学科では、「デザインスタジオ」などの演習科目において、科目内でいくつかのステップに分けた小課題を設定し、順番に学習していくことで最終的な到達目標を明確化している。課題ごとの講評会は全員が参加することで、学生自身が振り返りを行い、達成度を確認している。</p> <p>都市環境デザイン工学科では、学部共通の達成度自己評価システムに学科で必要な項目を追加した Excel 入力シートを学生に配布しており、学生は年 2 回このシートに記入して教員に報告し、教員はその報告内容を確認する取り組みを行っている。これにより、学生自身に学習成果を客観的に認識させている。</p> <p>システムデザイン学科では、奨学金やゼミ所属、就職、大学院進学などに関して GPA に基づく基準を設けて順位付けを行い、評価している。応用プロジェクトや卒業研究・卒業制作等で具体化された作品は、積極的に学外コンペティションへ応募することを奨励し、毎年、いくつかの作品が賞を受賞している。</p>	
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> Web シラバス 各学科教室会議議事録 達成度自己評価システム（都市環境デザイン工学科） システムデザイン学科ホームページ（受賞報告） 	
<p>③「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。</p> <p>入学時にプレースメントテストを実施し、基礎学力を測定している（2020 年度は COVID-19 の影響のため中止、2021 年度は Web 試験により実施）。英語の授業では TOEIC-IP を成績評価の方法に取り入れている。また、学習・教育目標に関する達成度自己評価システムを構築・提供し、学生自身が学期ごとに自己確認できるようにしている。</p> <p>建築学科では、3 年次秋学期のゼミ配属時に「CARESS」を用いて、ゼミ指導教員と学習達成度を確認し、その後の履修計画に役立てている。また、「デザインスタジオ」などの演習科目で最終講評会を開催し、教員が横断的に学習成果の達成度を確認している。</p> <p>都市環境デザイン工学科では、達成度自己評価システムを利用した学習達成度の確認作業によって学生自らが学修実績を振り返り、今後の履修に対する心構えを教員に報告させ、教員がこれを確認している。各学生の担任教員は、その報告に基づいて学習・教育到達目標ごとの達成度や学習効果を定量的に把握・確認している。</p> <p>システムデザイン学科では、分野横断型の実習科目「プロジェクト実習・制作」において全教員が参加する成果発表会を実施し、コミュニケーション力を含めた学習成果を測定している。また、学内外の各種コンペティションの受賞状況から学習成果を評価している。</p>	
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> デザイン工学部新生への案内 Web シラバス 達成度自己評価システム IAE サーバー「CARESS」（履修支援システム）の利用案内（建築学科） 	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

- ・学生から提出された達成度自己評価システムの保管資料（教員による内容確認済み）（都市環境デザイン工学科）
- ・授業記録（建築学科）、授業資料（システムデザイン学科）
- ・システムデザイン学科ホームページ（受賞報告）

④学習成果を可視化していますか。

S A B

※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等。

市ヶ谷田町校舎内の展示スペースに学生による優秀作品を展示し、学習成果を可視化している。その他、各学科が以下の取り組みを行っている。

<建築学科>

- ・設計作品、卒業論文、卒業設計について、作品集、論文集を刊行している。
- ・IAE サーバーのRFC 機能により、優秀作品の公開と学生による研究成果や作品の発信を図っている。
- ・IAE サーバーを利用して学生がポートフォリオ（e-Portfolio）を作成できるようにしている。

<都市環境デザイン工学科>

- ・デザインスタジオや景観デザインに関する学生コンペでの優秀作品を展示するとともに、業績をパンフレット・学科ホームページ・教室棟展示棚に公開している。
- ・卒業論文概要を作成し、次年度の在學生に配布している。また、学科ホームページの各研究室の卒業論文・修士論文の一覧において卒業論文概要を学内に開示している。
- ・学会などにおける学生の受賞を学科ホームページにて報告している。
- ・達成度自己評価システムによって学習・教育到達目標毎の達成度、GPA、進級・卒業・技術者資格取得に要する取得単位充足状況を定量的に評価している。

<システムデザイン学科>

- ・卒業研究・卒業制作の概要集を作成している。
- ・大学院システムデザイン専攻と合同で作品集を作成している。電子版を学科ホームページで公開するとともに、2021年度は冊子体を新入生に配布した。
- ・演習・実習系科目の優秀作品、および学内外の各種コンペティションや学会等の受賞状況を学科ホームページで公開している。

【2020年に変更や改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

<3学科共通>

- ・市ヶ谷田町校舎内の回廊展示

<建築学科>

- ・IAE サーバー「RFC」（Request for Comments）の利用案内
- ・『HOSEI STUDIOWORKS』（作品集）
- ・『建築研究』（論文集）

<都市環境デザイン工学科>

- ・卒業論文・修士論文概要 CD-ROM
- ・都市環境デザイン工学科ホームページ
- ・学生から提出された「学習達成度自己確認システム」（教員による内容確認済み）の保管資料

<システムデザイン学科>

- ・卒業研究・卒業制作概要集
- ・『HOSEI University Engineering & DesignCreative Works』（作品集）
- ・システムデザイン学科ホームページ

1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。

①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

カリキュラムの見直し期には、各学科において学科内委員会を発足させてこれにあたっている。

建築学科では、JABEE のプログラム認定審査年度に、成果の公開展示を兼ねた教育内容の振り返りを行っている。

都市環境デザイン工学科では、JABEE による認証評価を受審、認定を受け、評価結果をもとに教育全般の改善を行って

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

いる。また、毎学期あるいは毎年実施される授業改善アンケートや卒業生対象のアンケート調査の結果を分析し、学生・卒業生の意見に基づく教育効果を多角的に計測して教育改善を図るとともに、同窓会（法士会）主催の社会工学セミナーや同窓会との意見交換会を実施（2020年度はコロナ禍により中止）することにより、自立力ある技術者人材を輩出するための教育・研究のあり方を議論している。さらに、3年に一度を目処に外部有識者数名からなる「教育評議員会」を開催し、教育課程およびその内容についての評価を受けている。

システムデザイン学科では、教室会議や年度末の授業打ち合わせ会にて学生の履修情報を教員間で交換・共有し、授業内容や授業方法の見直しの機会としている。なお、COVID-19の影響により、2020年度の授業打ち合わせ会はオンライン開催とした。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

<3学科共通>

・デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政 HONDANA）

・教室会議議事録

<建築学科>

・建築 JABEE 運営委員会議事録

<都市環境デザイン工学科>

・教室会議議事録（法士会との意見交換会議事録を収録）

・拡大教室会議の配布資料・議事録（WG 活動報告を収録）

・法士会会報（社会工学セミナー実施報告を収録）

・教育評議員会の配布資料・議事録

<システムデザイン学科>

・授業打ち合わせ会案内

②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。

S A B

※利用方法を記入。

各学科において、授業改善アンケートからの「気づき」をシラバスに明記し、学科内で共有している。また、授業改善アンケート結果の内容を各教員が照査し、特徴的事象については、教室会議や年度末に実施している授業打ち合わせ会において情報交換を行い、授業内容の見直しに活用している。

都市環境デザイン工学科では、授業改善アンケート結果に基づき各科目担当教員が全ての授業について「次期授業改善計画」を作成し、授業の改善に反映させている。また、学科独自の授業改善アンケート結果に基づいて教員に優秀授業賞を授与し、教育業務へのインセンティブを与えて教育を継続的に改善する仕組みとしている。授業評価の高い科目とその担当教員の一覧を学内掲示板と学習支援システムに開示し、全教職員および学生に周知することで、継続的な授業改善の仕組みを作っている。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・Web シラバス

・教室会議議事録、拡大教室会議議事録（都市環境デザイン工学科）、授業打ち合わせ会案内（システムデザイン学科）

・学習支援システム「お知らせ」（都市環境デザイン工学科）

（2）長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・建築学科と都市環境デザイン工学科は JABEE（日本技術者教育認定機構）による認証評価を受審し、評価結果をもとに教育全般の改善を行っている。	1.1① 1.1③
・英語による実践的コミュニケーション能力の向上を目的として、英語教育委員会を設置し英語教育のあり方を継続的に議論している。また、外国人等客員教員の制度を活用し、外国人教員の招聘を積極的に行っている。	1.1④ 1.1⑤ 1.2①

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・初年次導入科目において、クラス分けによる少人数制できめ細かな履修指導や学習指導、初年次教育を行っている。	1.2② 1.4③
・達成度自己評価システムを整備し、学生に自己の学習達成度を客観的に評価させている。	1.4④
・学生の作品や成果物を作品集や論文集にまとめ可視化している。	1.5①

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・製作や実験に必要なスペースおよび施設の拡充について継続的に検討していく必要がある。そのための一つの取り組みとして、他の教育機関と連携し、同校の実験施設を夏季集中の演習授業で利用する計画を進めている（COVID-19の影響により2022年度以降の実施となる見込み）。 ・コロナ禍における授業のあり方について、とくに対面授業が制限される中での演習・実習系授業での教育方法や評価方法に関する議論を進める必要がある。 ・基盤教育のあり方や基盤教育方針に沿った教員体制について、引き続き基盤教育委員会を中心に検討を進め、議論を深める必要がある。 	

【この基準の大学評価】

<p>デザイン工学部では、1.1①、②について、2019年度からのカリキュラム改定により、文理融合と、実務と結びついた演習・実習、スタジオ教育を通じた専門教育を充実させた。そして、各学科・系ごとにカリキュラムツリーを作成し、履修の手引き、学部HPに掲載している点が適切である。</p> <p>1.1⑤について、2020年度に外国人等客員教員1名が着任し、「特別講義」等の授業を開講し、学生の国際性を涵養するための教育内容が提供されている点が評価できる。一方で、COVID-19の影響により「海外英語研修」が中止となったことはやむを得ないが、代替プログラム実施の検討が望まれる。</p> <p>1.2③について、2021年度はCOVID-19による影響を考慮し、年間履修登録上限数を49から53単位まで引き上げることができる特例措置を講じており、このような措置を検討した点は評価できる。一方で、この措置により学習時間の確保に問題が生じなかったか、検証が実施されることが望まれる。</p> <p>1.2④について2020年度は建築学科「デザインスタジオ1・3・5・7」では学年を超えて学生の成果を発表・講評し、教員・学生同士で活発に議論する機会を設けており、システムデザイン学科「応用プロジェクト1・2」では学部を超えて経営学部の教員・学生も参加し、学外コンペティションへの応募を前提とした製品企画を目指している等優れた取り組みを導入している。</p> <p>1.4③、④において、各学科において、「CARESS」、達成度自己評価システム、全教員参加による成果発表会の実施等により、学習成果を把握・評価する具体的な方法が導入されている点、各学科において学生の優秀作品を公開する具体的方策がとられ、学習成果を可視化している点が評価できる。</p>
--

2 教員・教員組織

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。</p> <p><3学科共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年度末に講師懇談会や授業打ち合わせ会を開催し、兼任教員や教育技術嘱託を交えて教育内容、教育方法等の改善を検討 ・各兼任教員に対して窓口となる担当の専任教員を配置し、兼任教員との確実な連絡体制を構築 ・学生による授業改善アンケートの実施 <p><建築学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・JABEE 研修会への代表教員の参加と研修報告 <p><都市環境デザイン工学科></p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

- ・JABEE 研修会への代表教員の参加と研修報告
- ・学内外で実施される FD 推進活動への参加と日常的実践ならびに FD 活動報告書の提出
- ・授業のビデオ画像収録による自己点検と相互視聴、「学生による授業評価アンケート」結果に基づく「次期授業改善計画」の策定とその実現など授業改善を継続的に図る仕組みの整備

<システムデザイン学科>

- ・教室会議において、授業の内容や実施状況、スケジュール管理、課題等に関して議論
- ・実習科目の成果発表会における外部審査員の招聘

【2020 年度の F D 活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※箇条書きで記入。

<建築学科>

- 1) 3 名の外部審査員を招聘し、卒業設計優秀作品公開講評審査会を開催し、総評をスタジオワークスに掲載、配布を行った。
- 2) デザインスタジオ連絡会議を開催し、専任・兼任教員による横断的な意見交換を行い、各スタジオ間連携及びデザイン教育全体の俯瞰的な授業内容の点検を年度末に実施している。2021 年度はコロナ禍による影響を鑑み、8 月 28 日と 3 月 16 日の計 2 回実施した。
- 3) JABEE 建築分野審査・受審セミナー、2021 年 2 月 25 日（木）13 時～15 時 30 分、建築学会（オンライン）、専任教員 1 名参加
- 4) Web 審査に関する意見交換会、JABEE 主催（オンデマンド）、専任教員 1 名参加

<都市環境デザイン工学科>

- 1) JABEE 審査員 Web 基礎講習（2020 年度）、2020 年 9 月 1 日（土）～9 月 10 日、小金井キャンパス、専任教員 1 名
- 2) HOSEI2020 オンライン授業ニュース各号の参照、学内で実施されたオンライン授業講習会（「実験のオンライン授業化（2020 年 4 月 21 日）」、「語学・少人数演習系科目のオンライン授業の準備事例（2020 年 4 月 22 日）」など）の視聴により、授業の適正化・効率化に必要な教授方法を修得し担当授業や研究室ゼミに反映、専任教員 1 名
- 3) 教職員セミナー（オンデマンドコンテンツ）「反転授業の考え方を踏まえたオンライン授業実践事例」、10 月 26 日（月）18:00～19:00、法政大学市ヶ谷田町校舎、専任教員 1 名
- 4) 教職員セミナー（オンデマンドコンテンツ）「著作権法 35 条施行に伴う留意点とオンライン授業教材制作」、2020 年 11 月 21 日（土）13:00～15:00、法政大学市ヶ谷田町校舎・小金井校舎、専任教員 3 名
- 5) レポート課題の出題方法に関する参考書確認、2021 年 1 月 6 日（水）9:00～12:00、自宅、専任教員 1 名

<システムデザイン学科>

- 1) 「プロジェクト実習・制作 2」最終発表における外部審査員への優秀作品動画の配信（2021 年 1 月 20 日、優秀作品の企業担当者への配信数：28 社 32 名）
 - ・学生作品へのフィードバック・コメント
 - ・配信動画の閲覧数：45 回 <https://www.youtube.com/watch?v=lcEkgbvQ0tg>
- 2) 兼任教員を交えた授業打ち合わせ会の実施（2021 年 3 月 2 日オンライン実施、参加者：51 名）
 - ・2020 年度の授業実施状況の振り返りと課題の抽出
 - ・2021 年度の授業実施計画の確認と課題の抽出
 - ・COVID-19 における対応と対策

【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入

- ・各学科教室会議議事録
- ・都市環境デザイン工学科拡大教室会議配布資料・議事録（FD 活動報告書、WG 活動報告を収録）
- ・各授業担当者が作成した授業改善計画書（次期授業改善計画を収録）（都市環境デザイン工学科）
- ・授業打ち合わせ会案内（システムデザイン学科）

②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。

S A B

※取り組みの概要を記入

学外組織との共同研究や受託研究、寄付研究等を行うことにより、産官学連携による教育研究の推進を図るとともに社会への研究成果の還元を行っている。また、多くの教員が官公庁や公共団体の設置する委員会等に招聘され、行政施策の策定等に参加している。

本学部の教員が主体となって活動している「エコ地域デザイン研究センター」および「江戸東京研究センター」と協力して、公開講座などを実施している。また、多くの教員が学会などに協力して、シンポジウムなどの講師を務めている。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

建築学科では、例年 5 月下旬の土曜日に、学科同窓会と連携して、専任教員全員、1 年生全員、その他の学年の学生有志、卒業生が「ウォークラリー」と称する街歩きを行っている。「ウォークラリー」では、特徴ある建築や街の姿に触れることにより、学習の動機付けを図っている。

都市環境デザイン工学科では、卒業生組織と連携して、教員及び学外有識者の教育研究成果に基づく「社会工学セミナー」を毎年実施している（2020 年度はコロナ禍により中止）。

システムデザイン学科では、積極的に学外コンペティション等に作品や成果を応募するようにしている。

【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入

- ・デザイン工学部教授会議事録
- ・「エコ地域デザイン研究センター」ホームページ、年次報告書
- ・「国際ワークショップ」ポスター、「ウォークラリー」ポスター（建築学科）
- ・「社会工学セミナー」パンフレット、「外濠市民塾」パンフレット（都市環境デザイン工学科）
- ・システムデザイン学科ホームページ（受賞報告）

③組織編制や F D 等に関して、COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。

※取り組みの概要を記入

- ・教室会議や教授会、授業打ち合わせ会などをオンライン会議にて実施している（重要審議事項については、大教室を使用し、感染予防に十分留意したうえで対面実施としている）。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入

- ・デザイン工学部教授会議事録
- ・各学科教室会議議事録

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・兼任教員や教育技術嘱託を交えた講師懇談会や授業打ち合わせ会を実施し、授業改善の検討を行っている。 ・本学部の教員が主体となって活動している「エコ地域デザイン研究センター」および「江戸東京研究センター」と協力して、公開講座などを実施している。 	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・公開講座などの各種取り組みについて、COVID-19 の影響を踏まえた見直しを適宜検討する必要がある。 	

この基準の大学評価】

デザイン工学部では、昨年度から引き続き、兼任教員や教育技術嘱託を交えた講師懇談会等を実施し、授業改善の検討をおこなっており、評価できる。

JABEE 研修会への代表教員の参加などを通じて教員の研鑽に努めている点が評価できる。また、「エコ地域デザイン研究センター」、および「江戸東京研究センター」と協力した公開講座などを実施し、学外の情報を取り入れ、かつ学外へ情報を発信する活動を実施している点も評価できる。

3 その他の基準の COVID-19 への対応

【2021 年 5 月時点の点検・評価】

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 その他、学生支援や学生の学習環境や教員の教育環境整備、社会貢献における COVID-19 対応・対策を行っているか。
①その他、学部として学生支援や学生の学習環境や教員の教育研究の環境整備、社会貢献等における COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。
※取り組みの概要を記入
<p>全学生分のフェイスシールドを用意し、学生に配付している。また、学生がオンライン授業の受講に必要な PC 環境を有しているかを個別に確認し、学生からの申請に応じて Web カメラ等の貸与を行っている。</p> <p>2020 年度は、新入生をサポートする取り組みとして、ラーニングサポーター制度を活用して初年次導入科目の各少人数クラスに 4 年生を配置し、オンラインで新入生からの質問・相談に答える仕組みを整えた。</p>
【根拠資料】
<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン工学部教授会議事録 ・各学科教室会議議事録

【この基準の大学評価】

<p>デザイン工学部では、全学生分のフェイスシールドを用意し、学生からの申請に応じて Web カメラの貸与を行うなど学生の学習環境の整備に努めている。またラーニングサポーター制度を利用し、初年次導入科目の各少人数クラスに 4 年生を配置しオンラインで新入生からの質問・相談に答える仕組みを整えるなど新入生支援を行っている。</p>

III 2020 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
1	中期目標	1)カリキュラムポリシーの見直しを行い、開講科目の体系を再構築する 2)高学年における英語教育のあり方について検討する	
	年度目標	1)基盤教育委員会において学部基盤教育の構成を立案する 2)英語授業は1年生科目となっているが、その妥当性について議論し、高学年への配置を検討する	
	達成指標	1)デザイン工学部基盤教育方針を策定する 2)英語教育に関し、2023年度のカリキュラム改訂について提案する	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	1)デザイン工学部基盤教育方針についての起草を行ったが、策定には到達していない。 2)高学年に対する英語教育の課題について、英語教育委員会での議論を重ねたが、今年度はコロナ禍における英語教育のオンライン化が主なテーマとなったため、カリキュラム案の提案には至っていない。
		改善策	1)教授会において他学部基盤教育の運営状況についての調査が要望されたため、次年度ではこれを行った上で、議論を進める必要がある。 2)英語については必ずしも履修学年の分散化に拘らず、高学年次での専門書読解や研究論文執筆の助けとなり得る教授内容の工夫も検討すべきとの意見が出された。
		質保証委員会による点検・評価	
所見	デザイン工学部での基盤教育方針は、市ヶ谷キャンパスにおける文理融合教育のモデルとしても重要である点を考慮し、多面的な検討が必要な事項であるため、策定を急がないとした点には意義を認める。		
改善のための提言	「数理・データサイエンス教育の全学展開」が始まり、理系リテラシー教育の重要性も高まっている。今年度に起草された基盤教育方針（案）では焦点とされていなかったリテラシー教育の見直しも含めて検討されたい。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
2	中期目標	1)造形製作教育の充実・拡張について検討する。 2)オンライン授業の定着について将来構想の一環として検討する。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	年度目標	1) 造形製作室の充実に加え校外実習の可能性を検討する。 2) オンライン授業の利点と課題の整理を開始する。
	達成指標	1) 校外実習先について調査を実施する。 2) オンライン教育を検討する所管委員会を設置し、カリキュラムや時間割のあり方について提案する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	1) 実験科目の充実を図るため、建築学科において2021年度夏季実施に向けた校外実習の具体的な計画が進行しており、実現可能な状態に至っている。 2) オンライン教育のあり方について、基盤教育委員がこれを検討することになったが、カリキュラムや時間割のあり方について具体的な提案には至っていない。
	改善策	1) 2021年度には、具体的な方法を定めて、校外実習を施行する。 2) コロナ禍収束後もオンライン授業を一定数継続することを前提に、その利点を生かせるカリキュラムのあり方について継続検討する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	1) オンライン化によって、授業の場所・時間の自由度が増したことと同時に、以前にも増して実習等の実体験の重要性が言われるようになった。その両方を満たすケースとして実現を期待したい。 2) 今年度獲得したオンライン化のノウハウをより発展的に生かすことのできるカリキュラム・時間割のあり方は今後の必須課題と思われるため、検討継続を期待する。
	改善のための提言	デザイン工学部では、カリキュラムの自由度を高めるためクォーター制を導入している。この制度をオンライン化と組みあわせることで、モビリティの高いカリキュラム・時間割編成が可能と思われる。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	オンライン授業が定着した場合の学習成果の評価方法を検討する
	年度目標	オンライン授業の試験方法についての検討
	達成指標	オンライン教育を検討する所管委員会を設置し、オンライン授業の試験方法について提案する
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	自宅等での受験に対する公正の確保について問題提起されたが、具体的な対策には至っていない。
	改善策	現状では学生に対面試験を強制することはできないが、コロナ禍の収束状況によってはオンライン授業であっても対面試験を実施する等の対策を講じる必要がある。
年度末報告	質保証委員会による点検・評価	
	所見	授業ごとに試験方法も異なり、オンラインによる試験については、それぞれの授業で最適な方法が模索されており、委員会所管とする必要性が認められなかった。
	改善のための提言	学生間のコミュニケーションを強化する上でも、オンライン授業と対面授業（試験）の組み合わせによるハイブリッド型授業を検討されたい。
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	多様な入試経路で受け入れた学生の学びに対する実態を把握し、入試経路の妥当性を検証する。
	年度目標	留学生の出身国の偏りを是正し、文化圏の多様化により学部教育の国際化を図るため、入試制度を検討する。
	達成指標	日本語学校指定校を選定し、適切な推薦基準を定める。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
年度末報告	理由	出身国の多様化を図る視点から日本語学校指定校選定が完了し、推薦基準を定めたため、年度目標は達成された。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		改善策	日本語学校指定校についての制度は整備されたので、今後は活用を図り、留学生の多様化を進めたい。	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	推薦基準は最低限満たすべき条件であり、デザイン工学を学ぶ熱意を持ち合わせた学生を得る工夫が必要。	
		改善のための提言	指定校での説明会など、デザイン工学部での学びの面白さを伝える機会を持つ等、優秀な留学生の進学につながる積極的なアクションも検討されたい。	
No		評価基準	教員・教員組織	
5	年度末報告	中期目標	基盤教育の新しいあり方に沿った専任教員の配置と、適切な年齢構成への移行	
		年度目標	基盤教育委員会による教員人事計画と並行して、教員のダイバーシティー推進を検討する	
		達成指標	ダイバーシティー推進の一環として、学部会議体の開催方法を見直すことにより、時短など効率化を図る	
		教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	S	
		理由	教授会と学部運営委員会の役割を整理することで、教授会のオンライン化を図り、会議の大幅な効率化を達成した。反面、効率化により審議が深まっていないという問題も指摘され、この点については改善の必要性が認められた。	
		改善策	左項に挙げた、会議の効率化に伴う審議深度の問題については別途検討するものとし、ダイバーシティー推進の一環としての会議等の時短化については十分な成果を得られたため、年度目標は達成されたとしたい。	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	図らずもコロナ禍により会議のオンライン化が進み、これにより、夜間にかかる会議が解消されただけでなく、教授会で扱うべき審議事項についても見直された点は時短化の上で十分な成果である。オンライン化の効果をより積極的に取り入れることで、個人生活と仕事の両立や、国外在住者による授業など、働き方と人材の多様化が期待できる。	
		改善のための提言	オンライン化による効率化と並行して、教職員相互のコミュニケーション機会の確保について検討されたい。	
No		評価基準	学生支援	
6	年度末報告	中期目標	学生への掲示情報量が増加傾向にあるため、校舎内での情報伝達方法の適正化を図る	
		年度目標	オンライン授業の推進に伴い、新入生の情報リテラシー教育について検討する	
		達成指標	情報リテラシー教育に関し、導入ゼミ等の新入生教育への組み込みを提案する	
		教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	B	
		理由	情報リテラシー教育について、現状では授業ごとの指導に任せられており、学科や学部としての提案には至っていない。	
		改善策	すでに検討が開始されている「数理・データサイエンス教育の全学展開」に沿って、デザイン工学部の情報リテラシー教育のあり方を整理する。	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	オンライン化が進んだことで、課題などの提出物もデータで作成されるようになり、前例のない不正行為も報告されるようになった。情報リテラシーに加え情報倫理教育の整備も待たれる。	
		改善のための提言	課題等の不正行為に関しては中間チェックの不足が一因とする指摘があったように、オンライン時代に即した指導方法のあり方も問われている。	
No		評価基準	社会連携・社会貢献	
7	中期目標	1) オープンキャンパス時に実施しているデザインスクールなどの公開講座を見直し、受験生だけでなく、社会貢献を意識した一般人を対象とする講座への展開を検討する 2) 2020年3月17日に締結された沼津市との「景観・まちづくり等に関する協定」についての取り組みを拡充させる		
	年度目標	1) デザインスクールについては好評であるものの、参加者は受験生に限られており、地域社		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		会への貢献の観点から内容の見直しを行う 2)「景観・まちづくり等に関する協定」をカリキュラムに位置づけるための検討を開始する
	達成指標	1)デザインスクールの改善継続あるいは代替プログラムへの移行を決める 2)沼津市と協議の上、協定運営のための所管委員会を設置し、協定を利用する授業や研究活動について提案する
年度末 報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	C
	理由	新型コロナウイルス対策として諸行事が中止されたため、本項目については未着手。
	改善策	1)今後もコロナ禍の影響が継続するものとし、参加者の居住地や、受け入れ教室定員の制限を受けない方法として、オンラインを活用した方法を検討する必要がある。 2)協定の具体的利用についても、コロナ禍の継続を仮定した上での検討が必要。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	今年度の検討未着手はやむを得ないが、次年度に向けてオンラインによる実施可能な内容を検討されたい。
	改善のための提言	授業の多くがオンライン化されたことを活用し、一部授業の一般公開が可能であれば、受験生だけでなく、在学生の保証人にも授業参観の機会を提供することができるため、検討されたい。
【重点目標】		
1)基盤教育（外国語教育を含む）について、全学的な検討が開始された「法政スタンダード」や「文理融合プログラム」など基盤教育の在り方との整合を図るかたちで、抜本的な見直しを図る。 2)オンライン授業の推進を将来構想として位置づけ、カリキュラムの在り方を検討する。		
【目標を達成するための施策等】		
1)デザイン工学部基盤教育委員会において「デザイン工学部基盤教育方針」を策定する。 2)オンライン化が可能な授業と、対面が不可欠な授業を区分することで、得られる諸効果について検討する。		
【年度目標達成状況総括】		
1)基盤教育方針については、策定にこそ至らなかったものの、基盤教育委員会による草案ができたことは評価に値する。基盤教育の変更は大きな改革であり、また文理融合を進める上での重要課題であるため、さらに議論を深め、十分な準備を経た上での実施としたい。 2)講義科目をほぼ全てオンライン化することで校舎内に十分な空間を確保し、さらに独自の安全対策を講じた上で、他学部にも先駆けて演習科目の対面実施を行った結果、校舎内でのクラスター発生もなく、1年間の授業を無事に終了することができた。デザイン工学部は、一学部一校舎というコンパクトな環境にあるため、このように試験的な施策を取りやすく、そこで得られた知見を全学に還元することができる。この環境を生かし、今後も様々な先駆的モデルを提供できるように努力したい。		

【2020年度目標の達成状況に関する大学評価】

デザイン工学部では、コロナ禍により凶らずも会議のオンライン化が進み、審議事項について見直しがされただけでなく、夜間にかかる会議が解消されたことで、ダイバーシティー化が推進されたことは高く評価できる。

他学部にも先駆けて演習科目の対面実施を行っているが校舎内に十分な空間を確保し、独自の安全対策を講じたことで校舎内でのクラスター発生もなく1年間の授業を行えたことは評価できる。

一方で、オンライン化が進んだことで、課題作成などに関する前例のない不正行為が報告されたということで、オンライン時代の指導方法の在り方の検討が望まれる。また、2020年度はコロナ禍により実施できなかった学外行事について、オンラインの活用など代替案による実施検討が望まれる。

IV 2021年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	1)カリキュラムポリシーの見直しを行い、開講科目の体系を再構築する 2)高学年における英語教育のあり方について検討する
	年度目標	1)他学部の教養教育の状況も参考にしながら、デザイン工学部基盤教育の基本方針を検討する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		2) 高学年次における英語教育のあり方の観点から現カリキュラム (2019 年度改定) の評価・検証を行う。
	達成指標	1) デザイン工学部基盤教育方針を策定する。 2) 2023 年度のカリキュラム改定に向けて、高学年次の英語教育に関する課題の抽出と対応方針の検討を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	1) 造形製作教育の充実・拡張について検討する 2) オンライン授業の定着について将来構 想の一環として検討する
	年度目標	1) 造形製作室の利用状況をモニタリングし、コロナ禍における適切な造形製作室の運用方法を検討する。 2) コロナ禍およびコロナ収束後のオンライン授業のあり方について検討する。
	達成指標	1) 感染状況に応じた適切な造形製作室の運用体制を整備する。 2) 学部内外のオンライン授業に関するグッドプラクティスを調査・集約し、知見を教員間で共有する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	オンライン授業が定着した場合の学習成果の評価方法を検討する。
	年度目標	演習・実習系科目におけるオンラインを活用した制作物（成果物）の共有や評価、講評の方法について検討する。
	達成指標	演習・実習系科目における学習成果の評価方法等について、オンラインの活用状況と課題を教員間で共有する。
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	多様な入試経路で受け入れた学生の学びに対する実態を把握し、入試経路の妥当性を検証する。
	年度目標	・ 入試経路と入学後の成績・進路等との関係を把握する。 ・ デザイン工学部における教育の特徴を理解してもらうための受験生を主な対象としたオンライン授業公開の実施可否について検討する
	達成指標	・ 入試経路ごとの特徴や課題を整理し、教育方法に反映させるための提案を行う。 ・ オンライン授業公開またはこれに代わる施策を実施する。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	基盤教育の新しいあり方に沿った専任教員の配置と、適切な年齢構成への移行。
	年度目標	・ 基盤教育方針と併せて専任教員の採用計画について検討する。 ・ 教員組織の年齢構成、分野のバランスを考慮した適切な新規採用人事を行う。
	達成指標	・ 基盤教育方針に沿った専任教員の採用方針を定める。 ・ 予定している 3 件の新規採用人事を行う
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	学生への掲示情報量が増加傾向にあるため、校舎内での情報伝達方法の適正化を図る
	年度目標	教員・学生間の円滑な連絡手段について検討する。
	達成指標	学生が教員に対してオンラインでも質問・相談を行うことのできる環境・仕組みを整備する
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	1) オープンキャンパス時に実施しているデザインスクールなどの公開講座を見直し、受験生だけでなく、社会貢献を意識した一般人を対象とする講座への展開を検討する 2) 2020 年 3 月 17 日に締結された沼津市との「景観・まちづくり等に関する協定」についての取り組みを拡充させる
	年度目標	1) デザインスクールまたはその代替プログラムについて、オンライン実施の可能性を含めて実施可否について検討する。 2) 沼津市との協定の具体的な利用について検討する。
	達成指標	1) デザインスクールまたはその代替プログラムを実施する。 2) 沼津市との協定を利用した教育研究活動を実施する。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

1)、2)とも、社会情勢等により実施困難な場合は、次年度以降の計画を策定する。

【重点目標】

デザイン工学部基盤教育の基本方針とこれに沿った専任教員の採用計画について検討する。

【目標を達成するための施策等】

2020年度に設置された基盤教育委員会を中心に、他学部の教養教育の状況も参考にしながら引き続き検討を進め、基本方針を策定する。

【2021年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

デザイン工学部では、2021年度の年度目標・達成指標は、中期目標とおおむね適合しており、適切である。2020年度自己評価 B、C となったものについては質保証委員会からの改善のための提言等を踏まえた目標設定となっている。なかでも、コロナ禍における造形製作室の運用方法の検討、実習・実験科目におけるオンラインを活用した製作物の評価方法の検討、オンライン授業の在り方についての検討は、演習・実験・実習系授業を重要視しているデザイン工学部の理念の達成のために、強く望まれる。

【大学評価総評】

デザイン工学部で2019年度からカリキュラム改定がなされたのは、教育の質の向上のための積極的な取り組みである。その後、2020年度に外国人等客員教員1名が着任し、「特別講義」の開講による、学生の国際性を涵養するための教育内容が提供されている点、各学科において、学習成果を把握・評価する具体的な方法が導入されている点、JABEE 研修会への代表教員の参加や公開講座などの実施による、学外の情報を取り入れ、学外へ情報を発信する活動を実施している点で、適切な運用がなされている。

また、2020年度はコロナ禍対応で対面授業が制限されるなか、演習系授業の対面実施が夏季集中特別授業期間にいち早くおこなわれており、演習・実験・実習系授業を重要視しているデザイン工学部の姿勢として高く評価できる。今後のコロナ禍における授業のあり方についての引き続きの議論が望まれる。2020年度は中止となった諸行事の実施にも期待したい。

今後も、教育の質をより向上させるため、安定かつ積極的、また、緊急事態時における柔軟な対応を継続することを期待する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。